
彫刻専攻

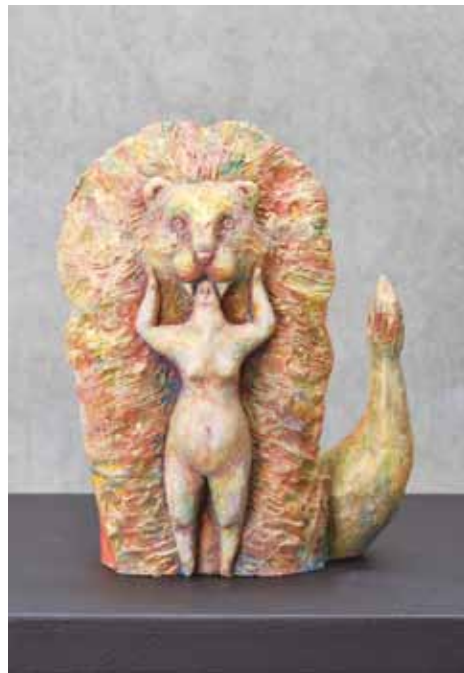
Sculpture Course

荒谷 叔未

ARATANI, Yoshimi

癒しの彫刻

Sculpture of healing



ライオン / Lion
テコラッタ、アクリルガッシュ
Terra cotta, acrylic paint
27 × 30 × 13 cm



牛骨 / Crummie
テコラッタ、アクリルガッシュ
Terra cotta, acrylic paint
29 × 17 × 15 cm



猫 / Cat
テコラッタ、アクリルガッシュ
Terra cotta, acrylic paint
2 × 13 × 16 cm

修了論文:癒しの彫刻 / Sculpture of healing

植草 夏海

UEKUSA, Natsumi

ハレの日と日常

“Harenohi” and everyday

修了論文：インスタレーションの一時性とハレの日

Impermanence of installation and “Harenohi”



Nichijou
“Nichijou”
おはながみ、木
Ohanagami(Japanese paper) and wood
サイズ可変
Variable size

勝木 杏吏

KATSUKI, Anri

現代日本でパブリックアートとして自立すること

Independence through public art in Contemporary Japan

学部時代の作品の共通点は、重力に逆らった空間表現である。立体を3点で自立させ上部に量感を持たせることで床に緊張感が生まれ、鑑賞者の視覚に直接うったえかける。また、4年次以降はパーツに分けたものを組み合わせることで更に大きな空間表現ができる作品を主に制作している。パーツに分けた作品を制作するほど大きな作品を作りたいと考えた理由は、パブリックアートに魅せられたからである。私はパブリックアートと野外彫刻を、台座の有無で区別している。台座が無く地面に直接設置された作品をパブリックアート、台座の上に設置された作品を野外彫刻として言葉を使い分けている。そしてパブリックアートに憧れを抱きだしたのだが、パブリックアートを置く環境も地位も経済力も自分には備わっていないので、大きな作品を制作する際はパーツに分け、室内に置くことを考慮する必要があったのだ。だがこの経験があったことにより、人が手で動かせるパーツを組み合わせることで巨大な彫刻を実現することに可能性と意義を感じた。

私の理想とするパブリックアートは、置かれる場所、鑑賞者に考慮して制作された作品である。いずれは在ることに慣れて当たり前になってしまうが、慣れてしまった人々の様子さえ作品の一部となるようなことがあり得ると考える。それは、環境に考慮し工夫された造形的な調和を持ちながら、そこに存在する強さがあるということだろう。工夫された造

形とは、場所、人々との意外性を持たせることである。例えば巨大なものが置かれているとする。建物以外に巨大な物質を見慣れていない私たちは、その巨大なものに異次元性を感じ、地球規模でその大きさを捉える。そのことは人間の存在を再認識させると同時に、巨大な宇宙の存在さえ感じさせる。環境の中に突然現れ、人々が行き交う何気ない日常をどこか奇妙にする光景こそが、彫刻の醍醐味だと感じた。時間が経ち、置かれた彫刻に興味すら示さなくなった人々も含めて、本当は作品ではないだろうか。それは、台座がなく我々と同じ地面に存在しているがゆえに、巨大な空間を作り出しているのではないか。

上記のような理由で、パブリックアートのように大規模な作品を制作する必要性を感じた。それと同時に心に留めておかなければならないことは、自身が日本人であるということだ。日本固有の土地や生活と強く結びついた、かっこ付きの宗教とは違った、土着的な宗教観を持つ日本は、「質素」や「侘び寂び」という西洋の感覚では捉えられない独自の美的な価値基準というものが存在している。これは、自身の制作に於いてタイトルや色彩表現の中で強く意識をしていることだ。フレームだけを輸入した西洋美術の価値基準だけではない、日本で表現をする意味を模索した挑戦的な制作活動を目指に出発した。

- 上 浮花
Floating flowers
鉄
Steel
サイズ可変
Variable size
下 BENT
鉄
Steel
サイズ可変
Variable size



修了論文：現代日本でパブリックアートとして自立すること

Independence through public art in Contemporary Japan

角田 啓輔

TSUNODA, Keisuke

彫刻制作による精神世界の追求

Pursuit of the spirit world by sculpture



幾つかの結節点に依る、或る関係性 / A certain relationship by some nodes

鏡、パンチングメタル、木、「夢十夜」（新潮社）夏目漱石著、「夢判断」（新潮社）ジークムント・フロイト著 高橋義孝訳 上p.153-164、下p.73-164より抜粋

Mirror, punched metal, wood, Soseki Natsume, *Ten dreaming nights*, Shinchosha, Sigmund Freud, *The Interpretation of Dreams*, Shinchosha

サイズ可変

例えばリンゴという言葉から、ほぼ共通したものを皆が連想したにしても、それを完全に一致したリンゴ像にするのは不可能であろう。リンゴのような簡単な言葉ですら個々の差異が生じるのだから、作品タイトルのようにとても繊細な役割を担っている言葉に至っては、その選択によって作品本体から遠く離れ、作者が思い描いていたイメージとは全く違ってしまいう事もあり得る。特に会話という行為においては沢山の言葉の羅列を幾通りもの繋ぎ方で複雑に構成する為、言葉によるコミュニケーションがいかに不確実なものであるかという事が考えられる。しかし、だからこそ私は会話という

言葉による他者とのコミュニケーションを大切にしたい。何故なら言葉とは社会に帰属するものであり、社会の曖昧さや社会そのものを象徴するからだ。社会が異なると言葉も異なり、国によって使われる言語が異なる事も同様な意味を持つ。私達もまた社会に属する中で言葉を用い、その意味や解釈を増殖させていく。そして新しい社会に触れる＝新たな言葉に出会う事で、自らの世界を広げる事が出来るのだ。所属する社会の中での言葉を用いながら、言葉でのコミュニケーションの不確実性を受け入れる事で、私達は新たな可能性を手に入れるのである。



Interface

トレーシングペーパー、木、「夢判断：上」（新潮社）ジークムント・フロイト著 高橋義孝訳

Tracing paper, wood, Sigmund Freud, *The Interpretation of Dreams*, Shinchosha

55 × 220 × 300 cm

修了論文：「制作による自己存在の追求」―他者と自己を繋ぐ―

Pursuit of the self-existence through the artwork: To connect others with a self

根岸 有希

NEGISHI, Yuki

水と命

Water and life



A spring
楠、鉄 / Wood and metal / 90 × 120 × 160 cm



Swell
楠、鉄 / Wood and metal / 160 × 140 × 130 cm

修了論文：命のうねり / Swell of life

山本 恵海

YAMAMOTO, Megumi

石の仕事

Work of stone



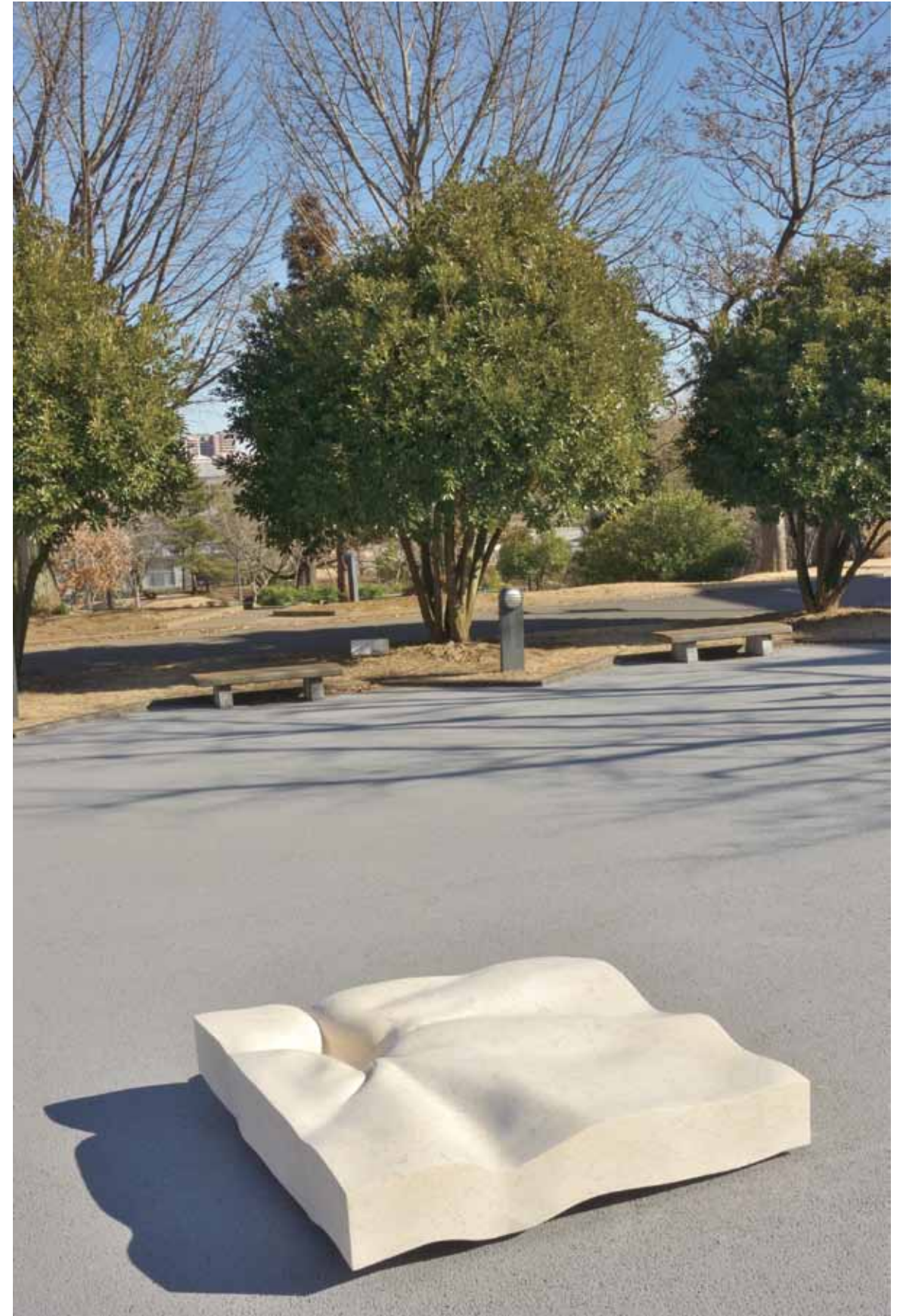
虹と雨と瓦屋根 / Rainbow & rain & tiled roof

石、岩絵の具 / Stone and natural mineral pigments / サイズ可変



空と実 / Empty and reality

石、鉄 / Stone and iron / 117 × 90 × 98 cm



硬と柔 / Hard and soft

石 / Stone / 32 × 163 × 157 cm

修了論文：石の仕事 / Work of stone